

地域健康生活支援学特講

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子 只石朋仁

【概要】

積雪寒冷地における地域生活を支援する上で必要な、地域風土や地域資源、さらには地域リハビリテーションに係る理念を理解するために、地域リハビリテーション推進に関する様々な人材育成、システム構築に寄与できるような実践能力について説明できる。

【学修目標】

一般目標：積雪寒冷地の地域特性を踏まえた地区診断の視点と生活支援実践方策を理解する。
行動目標：積雪寒冷地の地域特性を踏まえた地区診断や生活支援実践を関係機関と連携しながら実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～15	地域リハビリテーションの概念理解と積雪寒冷地が抱える諸課題	地域リハビリテーション概念の理解と北海道の現状把握 積雪寒冷地が抱える健康課題と地区診断の方法 関係機関との連携構築	鈴木英樹 長谷川純子 只石朋仁

【授業実施形態】

面接授業
授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義内での討議への参加状況50%、レポート50%で判断する。

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

公益社団法人日本リハビリテーション医学会監修 リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア 診断と治療社 2015年
須田力ほか著 積雪寒冷地における高齢者の生活と運動 北海道大学図書刊行会 1997年

【学修の準備】

講義前に提示する検討内容に関し予習を行う事（80分）。
講義終了後に、配布資料や討議内容を整理し復習すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鈴木英樹（専門理学療法士；生活環境支援） 長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）
只石朋仁（理学療法士、専門理学療法士；生活環境支援）

【実務経験を活かした教育内容】

地域実践における実務経験を踏まえ、地域住民が抱える生活課題について積極的に意見交換を行う。